

農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

2. 担い手のニーズに応えるための取組み

 (1) 生乳生産基盤の維持・強化に向けた取組み
JAくしろ丹頂（北海道）

新規	継続
	○
	(平成 26 年 9 月)

1 動機(経緯)	<p>当JAの主要産業である酪農業の基盤を守るため、生産者が生乳生産の維持、増産に向けて取り組むため搾乳牛を確保することが不可欠となっています。</p> <p>生産活動の礎である初妊牛(※)を確保して強靱な経営基盤を構築することを目的として、低利の融資を行いバックアップに取り組むこととしました。</p> <p>(※) 受胎してから初めて出産するまでの間の牛。</p>
2 概要	<p>初妊牛導入等に係る融資を支援するため、平成 26 年より「生乳生産基盤緊急対策事業」「生乳生産向上対策事業」をJA独自に実施しています。</p> <p>この事業により融資を受けた酪農家が初妊牛導入や施設整備等を行い、生乳生産量の維持・確保を目指し取り組んでいます。併せて、融資を受けた酪農家の利子負担軽減を目的に、JAバンク北海道サポート事業利子助成を有効に活用しています。</p>
3 成果(効果)	<p>今まで導入等を控えていた酪農家が本事業を活用し初妊牛の導入や施設整備等を実施するなど、生乳生産量の確保と農家経済の安定化に大きく貢献しています。</p> <p>また、本事業によりJA農業経営ステップアップローンの貸出伸長に繋がっており、併せてJAバンク北海道サポート事業利子助成の活用も増えています。</p> <p>1 平成 29 年 9 月末貸出実績 79 百万円 うち初妊牛関連：70 百万円 (100 頭分) 施設等整備：9 百万円</p> <p>2 平成 26 年度以降の貸出実績合計 702 百万円 うち初妊牛関連：600 百万円 (1,141 頭分) 施設等整備：102 百万円</p> <p>3 平成 26 年度以降の利子助成額合計 9 百万円</p> <p>当JA管轄の酪農家のうち4割以上の酪農家が本事業を利用しており、事業実施前に比べて1戸当たりの生乳生産量が2割以上増加しています。</p>
4 今後の予定	<p>合併による広域化の中の人材育成として、現場(営農)から一人の担当で営農指導・相談を受けるワンストップ化を目指し機構改革を行いました。</p> <p>これにより営農相談は組合員とのリレーションシップ強化に繋がる深掘した対応を行うことができ、その営農相談部署からより質の高い情報が信用部署へ繋がるようになり、金融支援強化及び事業間連携の強化に繋がっています。</p>